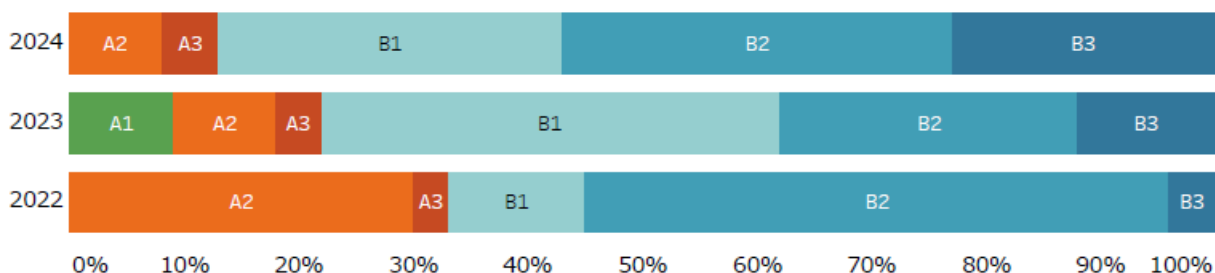


## 2024年 女子学院 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。問題数に大きな変化はなく、例年通り計算、求角にはじまって、バラエティ豊かな問題が並びます。問題数、問題難度を考えると、試験時間40分はかなり短いと感じます。限られた試験時間を有効に活用するためにも、A1、A2、B1レベルの問題は素早い処理が必要となります。時間をかけるべき問題なのか、見送るべき問題なのかなど、瞬時に適切な判断を下せる力が欠かせません。



大問1は、例年通り計算、一行題の構成でした。(1)の逆算は、今年も手間がかかりますが、確実に処理をしておきたいです。(2)は、手が止まった受験生もいたと思います。正三角形が円に内接していないため、見つけづらい部分もありますが、等しい辺や角に注目します。(ウ)で差がついたと思います。(3)、(4)は、テキストでも見かける典型的な問題です。確実に得点しておきたいです。(5)は、「勝った人は負け人よりも5人少なかった」に着目して式化していきます。

大問2は、つるかめ算の考え方を利用しますが、手が出なかった受験生も少なくないと思います。合計金額の十の位「90」に注目すると、ケーキ1個は430円となるため、買ったケーキの個数は奇数となることがわかります。ここではつるかめ算の考え方を利用して「最も極端な場合」を想定します。「もし19個すべてケーキだったら」と仮定して、1個ずつクッキーと入れ替えて調べていきますが、方針が立たなければ後回しにしてもよいでしょう。大問3は、回転体です。体積はでこぼこを入れかえて円柱に直して考えます。一方、表面積は計算が多くなるため、計算ミスに注意します。大問4は速さの問題でした。情報を整理して、歩く速さを「1」と置くなどして式化します。

大問5は、典型的な数の操作でした。類題に触れたことのある受験生がほとんどだと思います。(1)、(2)は確実に処理をして得点します。(3)は、2024を2でわって調べていきます。 $2024 = 2 \times 2 \times 2 \times 11 \times 23$ となることを利用して、 $11 \times 23 = 253$ に注目できると時間をかけずに見つけられたと思います。大問6は八角形の面積を求める問題でした。手が出ず、見送った受験生も多かったと思います。八角形内部に直線を引き、長方形に分割することがポイントです。ここは見送ってもよいかもしれません。大問7の流水算は、(1)がネックでした。(1)を乗り越えれば、(2)(3)は比較的取り組みやすいですが、無理せず見送って、他の問題に時間を費やす方がよいと思います。

多種多様な問題を40分で取り組んでいくため、素早い判断力、高度な処理能力は必須となります。あくまでも予想ですが、大問2、大問6、大問7を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると考えられます。